

I. 2021年度 法人事業計画書

【法人の運営方針】

運営理念（組織の使命、存在理由：何を成すために存在するのか）

私たちは、生きづらさを抱えた子ども達の権利を擁護し、環境を整え、子ども達の健全な発達保障と社会自立を目指します。

基本方針（理念を果たすための組織のあるべき姿：どんな組織を目指すのか）

- 地域に開かれた適正な施設運営に努め、福祉サービスの充実、質の向上を目指します。
- 保護者、地域社会（学校・地域・関係機関）と連携に努め、児童をとりまく諸課題を共に解決していきます。
- 児童の人権を擁護し、主体性を尊重した支援と自治的精神の涵養に努めながら、個々の児童を援助していきます。
- 個々の児童に対して正しい理解と適切な療育を行い、信頼関係を回復し、自立の力を身に付けられるよう援助していきます。
- 児童がより生きがいをもてるように、生活体験プログラムの構築と生活環境の調整・整備を行っていきます。
- 学校教育との協調連携を密にし、児童の共通理解を深めると共に、指導の一貫性を図るよう努めていきます。
- 協力して療育にあたる民主的な職員集団の形成に努めると共に、学識や学際的な技法の導入の必要性に鑑み、社会の諸資源との連携を密にしていきます。
- 地域社会の福祉ニーズの掌握に努め、社会貢献できる施設となるよう、施設機能を発展させ施設設備の充実を図っていきます。

II. 2021年度 運営・療育目標

【施設の運営方針】

基本方針

今年度は昨年度に続き、新型コロナウイルス感染予防と拡大予防に重点を置き、子どもたちの生活の中に、新型コロナウイルスを入れない・感染させない・広めないという意識を高め、職員が一丸となって日々の療育に努める。

またこの数年、職員も児童も安心、安全な生活を維持できない状態が継続していた。その経験から、2019年度に職員全体で共有した『子どもの幸せを応援する』というスローガンが具体的なものとなるよう、行動指針を打ち出す中で実践する。また職員個々に職種や立場が異なっても、『常に職員は一つのチームである』という意識をもち、機能的に子どもたちの支援に努める。その中で、滋賀県における児童心理治療施設さざなみ学園の役割を認識し実践すると同時に、特に今年度は自死事案の検証を行う中で再発防止に努め、他機関からの信頼回復をはかる。

また2023年度に60周年を迎えるにあたり、職員と共有した施設整備と新事業の展開に向け、今年度は理事会に提案を行うと同時に、理解が得られれば具体的に行動を起こす年度とする。

事業計画

1. さざなみ学園中長期運営計画を見直し、今後の運営指針を策定

- ① 「施設設備基本構想」についてはネクスト委員会で協議を行うとともに、直接処遇の全職員を「人材育成体系整備」「療育マネジメントシステム構築」「児童生活援助システム検討」に分け、各ワーキンググループでの協議を重ね、学園の療育のあり方や人材育成プログラムや研修等を計画的に進める。
- ② 検討内容を運営委員会に提議し、中長期計画を修正し理事会へ提言していく。

2. 地域家庭支援事業の推進

- ① 社会福祉法人の地域における公益的取り組み事業として、地域家庭支援事業を位置付ける。
- ② 社会的養護地域包括支援事業として「里親支援事業」「アフターケア支援事業」の滋賀県北部圏域の支援を積極的に行うとともに、「スクールサポート事業」により、彦根市内の小学校の支援を継続的に行う。
- ③ 客観的実績データとして、実践している事業実績のデータ化を図る。

3. 人事考課システムの導入について検討を加える

- ① 職員の専門性の向上と、職員自身が目指すべき道を考察する資料ともなり、自己啓発意識の醸成、モチベーション向上に資することができる育成システムやキャリアパスを検討していく。
- ② 職員個々の取得資格・研修受講履歴ファイル等を作成し、キャリアパスの基礎データ化を図る。

4. 働き方再検討（勤務職員の適正配置を考慮した業務の整理）

- ① 法令を遵守したうえで運営理念を遂行でき、効率的で職員の就労意欲が維持できる勤務体制と適正配置人数検討する。
- ② 勤務職員が一定の自由度の持てる業務の在り方を目指し、生活支援業務を整理調整する。
- ③ 個別的な支援と全体の生活支援とのバランスを考慮した、俯瞰的視点に努める。
- ④ ハラスメントのないより良い職場環境づくりを目指し、第三者の識者の助言を受けながら、職場内コミュニケーションの向上を図る中で快適な職場環境の実現に努める。

5. 古沢ホームの有効活用について具体的に検討し提案を行う。